

**令和6年度 大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業
審査結果表**

大 学 名	豊橋技術科学大学	タイプ	I：地域等連携型
プ ロ グ ラ ム 名	グローバルテック・イノベーターを育む多文化共修キャンパスの創出		
連 携 大 学 等	—		

〔評価コメント〕

本プログラム計画は、技術科学を基盤とした学部・大学院一貫教育の国際化に向けて、これまでの実績に加えてグローバルテック・イノベーターを育む多文化共修キャンパスを創出しようとする意欲的な取組みである。

その展開に当たっても、これまで設けられていたグローバル戦略本部と教育戦略本部の基に新たに設置する「ソーシャルインパクト創出支援事業推進室」を中心とする体制で実施する計画となっており、高く評価できる。

カリキュラムについてもこれまでの実績に加えて、多文化共修科目群に対するマイクロクレデンシャルの導入等の学びの成果の可視化やデジタルバッジによる自主的な学びの促進、留学生のプログラム終了後を見据えた日本語プログラムの更なる強化、全学必修科目「産学共修ものづくり研究」の創設など、学生の①技術科学創成力、②グローバル共創力、③インクルーシブなリーダーシップ力を身につけることについて期待が持てる。地域との連携、高専との連携、産学連携といったネットワークの強化も目指されており、大学を核とした地域ぐるみのグローバル化も期待される。

一方で、リベラルアーツ教育の充実が打ち出されているにも関わらず、学内のリベラルアーツ共修科目群はコミュニケーション能力を高めるための教育が中心で、深みと幅を持った「リベラルアーツ色」が見えず、他大学との連携についても体系的に組み上げられているとは言えず、目標とするグローバルテック・イノベーターの育成を達成するためには、更なる検討が望まれる。

また、目標とされている英語力では、各種課題を解決していくためのコミュニケーションを図る場面において、不十分である。具体的には、工学系の課題については比較的低い語学力で対応が可能だが、リベラルアーツ分野と工学系の融合を目指すという目標や、地域課題に取り組みその解決と新たな地域社会を創出するという目標に対して行うコミュニケーションにおいては、語学力が不足することが懸念される。

最後に、今回選定された貴学においては、世界や地域の課題解決に資する人材を育成するため、多文化共生社会の実現を牽引し、さらに多文化共修による教育研究活動を、国内外の課題解決策の提案や社会実装の先にある「ソーシャルインパクト」の創出につなげていくことを強く要請する。